

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年5月28日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔いっぱいの杉の子幼稚園」
「心身ともに調和の取れた発育・発達と健全な人間性の基盤をつくる」
「強く かしく たくましい 感性豊かな 思いやりのある子の育成」

望ましい子どもの姿：「自分の力で、元気に、仲良く、もうひと頑張りする子」

2. 本年度重点目標・計画

私たちは杉の子幼稚園に関わる全ての人が笑顔になる幼稚園をめざします。

- ・教育課程を見直し改善を図る…教育理念「つよく かしく たくましく」を具現化するために、幼児の実態に合わせた教育課程の編成にあたる。指導計画に基づいて計画的に保育を進め、振り返りや反省を行う。
- ・教職員の資質向上（研修・情報共有等）…「子どもの《自分で・自分が・自分から》を大切にする」主体的な学びを保障するため研修に積極的に参加する。公開保育を互いに見合い、子ども理解を深め指導力の向上に努める。
- ・特別支援教育のための園内支援体制を整備する（家庭との協力・連携も含む）…一人一人の発達を見据え、園全体で共通理解し、個に応じた関わりを心がける。
- ・安全管理体制の強化…新型コロナウイルス感染防止対策に努めるとともに、子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	B	<ul style="list-style-type: none">・今年度もまた新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながらの保育教育活動となった。その中でも、消極的にならずに子どもたちの主体的な学びを保障する教育課程の編成にあたっている。・子どもの実態に合わせて年間計画から月案・週案計画、そして日々の日案を具体的に立てている。また、日々の保育の振り返りを行い、次に生かせるようにしている。その結果、丁寧な保育ができ成果をあげることができた。・認定こども園となり4年目を迎える。保育部2歳児クラスと幼稚園部満3歳児クラスとの交流を定期的実施した。互いの共通理解が進み、年少組へのスムーズな接続を図ることができた。
2	教職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、予定していた研修会の多くが、オンデマンドやZoom・ビデオ通話等を使用したオンライン研修会となった。園で参加できるメリットもあり、積極的に参加し、保育者の資質向上に努めた。・子どもたちに質の高い教育を提供するとともに、様々な教育課題に適切に対応するため、話し合いの機会を十分持ち、互いの良さから学び、教職員の資質と実践的な指導力の向上を図った。・全クラスで公開保育を実施した。幼稚園部全園児による異年齢縦割り班でのスタンプラリーを实践し、研究保育を行った。日々の教育・保育の反省や振り返りを通して、先生たちが互いに学び合うことができた。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園の全ての教職員（様々な立場の職員）がチームとしてインクルーシブ教育を実践する。そのため、一人一人の専門性を高めるとともに、職場内の同僚性・協働性・信頼関係を構築していくことに力を注いできた。また、全教職員が職員会などを通して、子どもの特性や保護者の思い等の情報を共有し適切な支援をすることができた。 ・保護者のニーズを把握するために、個人面談や連絡帳でのやり取り、送迎時における会話などを大切にしてきた。また、外部の専門機関と連携を図り必要に応じて個別の教育支援計画を作成し、子どものつまずきに応じた支援を行うことができた。 ・年長児の支援の必要な子については引継ぎ支援シートを作成し、小学校と連携を取り合い、スムーズな幼小接続ができるように心掛けた。
4	安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の施設・設備・遊具・用具等の安全点検を定期的に行い、潜在的な危険の洗い出しに努めている。気になることがあれば課題を共有し、改善につなげている。 ・様々な想定避難訓練を実施したり、保育者間でイメージを共有したりすることで、災害時に予想される幼児の行動についても共通理解することができた。 ・防犯対策など、万が一の時の幼児の安全確保・教師の連携を定期的に見直す必要がある。

評価の基準（A：十分達成されている。 B：達成されている。 C：取組まれているが、成果が十分でない。 D：取り組みが不十分である。）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切に質の高い教育・保育活動を実践することができたとし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準（A：十分達成されている。 B：達成されている。 C：取組まれているが、成果が十分でない。 D：取り組みが不十分である。）

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1 教育内容	<p>新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行から2年が経過した。これまで可能な限りの感染防止対策に努めながらも、窮屈になるのではなく丁寧に一日一日を大切に過ごしてきた。そしてこれからも、コロナウイルスが身の回りにいることを前提として新しい生活様式（ウイズコロナ）を実践していかなければならない。感染リスクをできるだけ低減させながら、安心・安全な状態で毎日の教育・保育活動を継続・充実させ、子どもたちの健やかな成長を保障していくことが必要である。</p>
	<p>本園の研究テーマ「意欲いっぱいの子どもを育てる～友達や先生とのかかわりを通して～」を実践研究し、互いに刺激し合い自ら学び続ける保育者集団として、質の高い教育・保育を目指したい。研修会で学んだことを互いに共有するとともに、各クラスで楽しかった保育の実践についても具体的に話し合い学びあう場を作っていきたい。</p>
	<p>特別な支援や個に応じた支援が必要な子どもが増えている。特別支援教育の理解を深め、該当児の今持っている力を精一杯発揮しながら可能性を最大限に伸ばしていけるように、個別の配慮をしながら発達支援をしていく。特に年長児は、高知市教育研究所や小学校と連携し滑らかに確実な接続ができるようにする。また、保護者の思いに寄り添い、信頼関係を土台にきめ細やかな援助を行う必要がある。</p>
	<p>遊具は、冒険や挑戦、社会的な遊びの機会を提供し、子どもの遊びを促進させるものである。遊具や用具がもつ価値は子どもたちの成長に欠かせないものだが、冒険や挑戦には危険性も内在している。今年度も遊具だけが（右手肘骨折）をした子がいる。けがをするから遊びを中止にするのではなく、幼児の遊びの姿から危機管理の意識をもつようにならなければならない。子どもたちが遊具遊びで高さ感覚や逆さ感覚を身に付け、危険回避能力を高めていけるように、保育者が見守り指導する必要がある。</p>

6. 学校関係者の評価

<神田小学校長>

今年は、新型コロナウイルス感染防止対策と日々の教育活動の両立を模索した1年でした。小学校でも、昨年度はほとんどの行事を中止としてきましたが、今年度はどのような形でなら開催できるのか知恵を絞り工夫してきました。保護者参加の行事は、学年別にする、参加時間を分散するなど、いろいろ試行錯誤を繰り返しながら通常の教育活動や行事が戻りつつあります。私たちは、未知の物や経験のないことに対して恐れや不安を感じます。新型コロナウイルスに対しても、正しく理解し恐れ過ぎず日常の保育教育活動を継続・発展させながら、子どもの学びと成長が保障される幼稚園・学校をめざし、お互いに取り組んでいきましょう。貴園の評価項目のなかで、特別支援教育にご尽力されていることに感銘を受けました。特別な配慮を要する幼児が増えるなか、集団の中で伸び伸びと育っている様子がかがえました。みんなの幼稚園、みんなが共に育つ幼稚園というインクルーシブ教育が園全体に浸透していることが素晴らしいと思います。今後とも幼小連携を密にして、子どもの学びを積み上げていきましょう。

<令和3年度後援会長>

杉の子幼稚園の先生方は、いつも明るく元氣な挨拶で気持ちよく迎えてくれています。また、担任の先生だけでなく園全体で一人一人の子どもたちを見守ってくれていることは大変うれしく思っています。幼稚園として長い歴史で培った質の高い幼児教育を実践していただき、年少・年中・年長と学年が上がるにつれ子どもたちの成長の足跡がよく分かります。特に専門の講師の先生方による英語・みやもっち体育・絵画・硬筆等、幼稚園ならではの年間カリキュラムは素晴らしく、目に見えて成果が上がっています。更に英語を年少から取り入れていただくとか、年長になると鉄棒の逆上がり全員出来るようになるとか、指導の充実に取り組んでいただきたいと願っています。コロナ禍のなかでも先生方が感染対策を徹底しながら、行事を開催していただきとてもありがたく思っています。運動会は3部開催、発表会はクラス毎の開催となりましたが、逆にゆったりと安心して鑑賞することができ良かったという声もあがっています。ぜひ来年度は、先生方と後援会が一緒になって、子どもたちのためにいろんな行事が盛大に開催できたらと思っています。

<評議員/株式会社メディア・エーシー取締役会長>

新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行から丸二年が経ちました。特に今年は乳幼児にも感染が広がる中で、大変なご苦労があったことと思います。コロナ禍のなか、子どもたちが安心して毎日の園生活を楽しめるよう、園長先生はじめ先生方がそれぞれの立場で創意工夫され真摯な取り組みを続けられました。そのご尽力に心より敬意と感謝を申し上げます。少子高齢化社会が進む中、どこの幼稚園も園児数の減少に頭を悩ませていると聞きます。子ども・子育て支援新制度が進む中、幼稚園が置かれている環境は変わりつつあります。幼稚園も競争と淘汰されていく時代がそこまでやってきました。そこで重要になるのが営業力です。他の幼稚園もほとんど同じことをやっているにもかかわらず、人気のある幼稚園と人気のない幼稚園にわかれる秘訣はブランド力だと思います。この幼稚園に通わせればまちがいないと思っただけの顧客満足度ナンバーワンを目指していただきたい。貴園の教育目標「笑顔いっぱい杉の子幼稚園」を宣言し、すべての教職員が常に笑顔を意識し、笑顔で子どもや保護者に接する。先生の笑顔が子どもの笑顔を生み出し、子どもの笑顔が保護者の笑顔を生み出す。顧客満足度を高めるには時間がかかりますが、毎日の努力の積み重ねが信頼を作り出し、ブランドを形成します。歴史と伝統を誇る杉の子幼稚園の良さを大事にしながら、ぜひ「杉の子ブランド」の価値を高めていただきたいと祈念しております。

<あたご幼稚園長>

心配と不安を繰り返しながら、2年目のコロナ禍を終えました。多くの制約を受ける中でも、諦めずに一生懸命進んできた足跡を資料から確かに読み取りました。素晴らしい一年をお過ごしであったと感じます。今日的な課題に、臆さず正面から向き合っただけの先生方一人一人の姿勢そのものが、最大の成果であったのではないかと推察します。このご苦労は自信となっているはずで、すでに大変な力を身に付けておられると思います。今後は、「頑張る」から「楽しむ」にシフトしてはいかがでしょうか？先生方がしっかりと仕事を楽しむことが、やがては学園の力そのものになると思います。